

特集

JPS鉄道切手部会が選ぶ

『鉄道切手』ベスト50!!



6位 グレート・ウエスタン鉄道150年 (イギリス・1985年)

蒸気機関車全盛時代の4大鉄道を代表する急行列車を描く5種セットのうちの1枚。切手に描かれている2C1形蒸気機関車A4形式NO.4498「N.グレスリー」号は、グレスリー卿によってデザインされた流線形機関車。急行列車「フライング・スコツマン」を牽引して、イギリス東海岸の幹線を快走した。同形機NO.4468「マラード」号は、1938年にSLによる不滅の世界記録203km/hを達成。

8位 パン・アメリカン博覧会 (アメリカ・1901年)

切手に描かれた「エンパイア・ステート」号は、ニューヨーク・セントラル&ハドソン・リバー鉄道(NYC & HRR)を代表する急行列車。当時、2,184mmの大形動輪を持つ特製牽引機NO.999と列車は、180km/hを記録。報告を受けたNYC & HRRの旅客総支配人G.H.ダニエルが、時の郵政大臣に働きかけて、この切手が発行されたといわれる。赤&黒の2色なるがゆえの天地逆刷りが存在。



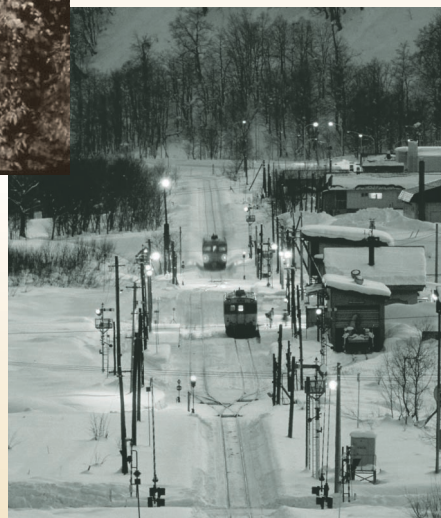
9位

ドイツ鉄道100年(ドイツ・1935年)

ドイツの1号機関車アドラー。アドラーは「鷲」。10位の「05形式流線形機関車」とともに4種セットのうちの1枚。ドイツ最初の鉄道(ヨーロッパ大陸で2番目)は、1835年、当時のバイエルン王国、ニュルンベルク〜フルト間で開業した。機関車アドラーは、イギリスのスチーブンソン社製1A1形。この機関車は「ドイツ鉄道125年&150年」切手にも登場する。

力強い躍動感、研ぎ澄まされた姿が生み出す極限のスピード…その数多くの魅力からファンも多い鉄道切手。今回はJPS鉄道切手部会に協力いただき、部会の選ぶ“鉄道切手ベスト50!!”を一挙に紹介! どんな切手が登場するのかお楽しみに!

[構成・監修 JPS鉄道切手部会]





1位

広重と「つばめ」時空を超えた対比が秀逸

東海道電化完成(日本・1956年)

多くの読者からも賛同いただける1位ランクだと思う。理由は抜群のアイデア、着想の面白さにある。つまり、広重の東海道五十三次「由井」と切手発行当時の新鋭機EF584が牽く東海道の花形列車「つばめ」との、時空を超えた対比が秀逸。名画「由井」に劣らず、電気機関車もしっかり描かれており、ヘッドマークの「つばめ」の上には「EF584」の文字も確認できる。なお、電気機関車のグリーンのツートン模様は一過性のもので、その後モノトーンに変更された。

※1位～10位切手解説、勝見洋介氏。

世界最初の鉄道「ロコモーション」号

3位

イギリス鉄道150年(イギリス・1975年)

日本を除く海外切手のトップ・ランク。鉄道150年を記念して発行された4種セットのうちの1枚。描かれているのは、1825年に世界最初の鉄道としてストックトン〜ダーリントン間の開業列車を牽引したB形機関車「ロコモーション」号。前方に突き出した太い煙突と、ボイラー上部に並ぶ動力伝達機構が、この機関車の形態的特徴。後者はSLのメカニズムを如実に表現している。



※2～3ページ、特記外、切手150%拡大。



5位

モスクワ地下鉄第1期線開通(ソ連・1935年)

モスクワ地下鉄第1期工事完成記念4種セットのうちの1枚。当時としては類例のないワイドな縦横比が特徴。それを活かして描かれた広々としたホームが印象的である。モスクワの地下鉄は、大理石やシャンデリアなどで飾られた豪華な駅が有名であり、それらを描く切手も数多く発行されている。今年は開業70年を迎え、4月25日に新旧車両を対比する切手2種が収められた小型シートが発行された。

“小さな図案の中に表現される大きな鉄道の世界！”——数多いトピカルコレクションの中でも「鉄道切手」は、現在も人気の高い収集対象のひとつであります。1985年にJPS切手部会として誕生した「鉄道切手部会」も、お陰様で現在全国150名程の会員により、順調な活動を続けております。

この度の部会が選ぶ「鉄道切手ベスト50!!」の特集企画により、多くの読者の皆さんに「鉄道切手」の魅力を知っていただき、新たな

収集ジャンルに加えていただけることを念願する次第です。

◆鉄道切手発行の歩み

鉄道切手の歴史は意外に古く、「ペニーブラック」発行から20年後の1860年、当時北米大陸を盛んに走っていた蒸気機関車(通称2Bアメリカン形)を描く最初の切手が、旧イギリス領ニューブラウンズウィックから発行されました(4位)。

以後、多数の切手に混じって、その数こそ少ないとはいえ、各国は自国の鉄道発達を示す機関車や

列車を切手に取り入れています。1869年には米国(29位)で、1871年にはペルー(30位)が、第2、第3の鉄道切手を発行。特に後者は、南米最初の鉄道として首都リマ・カヤオ・コリリヨス港間開通20周年を祝う、世界で最初の記念切手と言われ、この3種は当然ベスト50に選ばれました。19世紀に世界で発行された鉄道切手は僅か160種程で、その大半が南北アメリカ諸国なものも面白い現象です。

20世紀に入り、鉄道は陸上にお

日本の鉄道切手収集家の誇り“新幹線”

2位

東海道新幹線開通(日本・1964年)

新幹線“Shinkansen”は世界共通語である(一部では“bullet train”と呼ぶこともあるが少数派)。東京オリンピックを契機に開業した東海道新幹線は、世界の鉄道業界に刺激を与え、高速化と大量輸送の潜在需要を認識させた。新幹線は日本の鉄道切手収集家の誇りでもある。海外の鉄道切手収集家から鉄道先進国としての対応が得られるのは、この切手をはじめとする一連の新幹線切手があるためと認識している。



阿里山森林鉄道80年(台湾・1992年)

この切手の7位進出には、若干意外感を持たれる方もあるのではないかな? 私もその一人である。しかし、改めて考えてみると、アジアと登山鉄道の代表として、この切手を選んだ方は優れたバランス感覚の持ち主であったといえよう。勾配&カーブに強い縦形シリンダーのシェイ・ギアード方式で2,400mを登る。

7位

ドイツ鉄道100年(ドイツ・1935年)

ドイツ鉄道100周年の年、この「05形式流線形機関車」はボルジッヒの工場で2両誕生した。3シリンダー、2,300mmの大動輪を持ち、全体をレール面まで覆う徹底した流線形である。この2両の05形式機関車は、ベルリン〜ハンブルク間、朝夕のビジネス特急の定期運行に投入された。1936年5月、同区間の穏やかな下り勾配のテスト走行で200.4km/hを記録、SLが初めて200km/hに到達した往時の世界記録であった。

10位



4位

鉄道1番切手!



世界初の鉄道切手(ニューブラウンズウィック・1860年)

鉄道を描いた世界最初の切手。こうした発行意義も含めて評価され、上位に進出したといえよう。ニューブラウンズウィックは、カナダ連邦結成前のイギリス領で、1860年に同地区最初の鉄道がセントジョン〜モンクトン間に開業した。鉄道切手の代表として、カタログの表紙などを飾ることも多い。[200%]

けるますます重要な輸送手段として世界の隅々に至るまで拡大を続け、切手の世界にもいろいろな変化が現れてきました。その中で最大のエポックは、1930~50年代に世界の先進各国が次々に鉄道開通100年目を迎え、その記念切手を競って発行したことです。

まずベルギー(1935)、次いでドイツ(1935・9位&10位)がともに1号機関車と最新式の車両を描く複数種を発行。以後このパターンは定着し、格調高い落ち着いた色彩の

切手の発行が続きました。

鉄道開通の日にも多くの記念切手が発行されるようになり、さらに同じ時代に3~5年毎に開催された「国際鉄道会議」の開催国から発行された数々の記念切手も、魅力あるデザインのものが多く見逃すことはできません。1930年のマドリッド総会では、スペインから世界最初の電気機関車の切手が発行されました(17位)。思えば当時は「鉄道切手」ではなく「汽車切手」と表示されており、高価で、

機関車、列車を描いたものが主体だった50種入りパッケージが憧れの的であった時代が思い出されます。

やがて動力近代化により、鉄道の主力は蒸気から電気、ディーゼルに移り、近代車両や鉄道施設を取り上げた多くの切手が発行され、鉄道切手の定義も大きく変わり、対象も増加しました。日本の新幹線、フランスのTGV、ドイツのICE他、各国の花形急行列車などに人気があるようですが、

11位



※4～5ページ、特記外、切手120%拡大。

韓国鉄道50年(韓国・1949年)
当時の韓国の代表的な蒸気機関車。日本で製造された2C1形蒸気機関車で、主要幹線の旅客用機関車のエース的存在であった。当時の時代背景から、切手の紙質は粗悪であったが、紺色で印刷されたデザインは迫りもあって、上位にランクされて当然の切手である。

12位



ボヌ〜タバッサ間鉄道電化完成 (アルジェリア・1957年)

橋上を行く6A形式CoCo電気機関車。鉱石輸送で活躍し、アフリカの鉄道切手として人気が高い。この電気機関車はフランスから導入されたものである。

【11位～20位!!】

※11位～20位切手解説、藤井嘩氏。

14位



第12回国際鉄道会議(エジプト・1933年)

第12回国際鉄道会議を記念して4種類の切手が発行されたが、その中の1枚で、エジプトの1号機関車を描いたもの。この蒸気機関車は、1852年にイギリスのスチーブソン社で製造された。

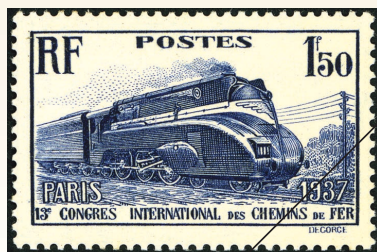
13位



鉄道70年(日本・1942年)

C53形式蒸気機関車の後継機として、1941年に誕生したC59形式蒸気機関車。1947年までに196両が製造され、東海道、山陽本線、呉線で活躍。晩年は鹿児島本線、東北本線でも活躍した。また47両は軸重を下げたC60形として改造され、東北本線、鹿児島本線などで活躍した。

15位



第13回国際鉄道会議(フランス・1937年)

フランス北部鉄道の2C1形蒸気機関車で、世界的に流線形が流行した時代があったが、その先駆者的な存在であった。日本の流線形蒸気機関車の試作車(C5343)のお手本になった機関車と見られる。

16位



Sシリーズ第3集「8620形式」(日本・1975年)
日本国鉄の大正時代代表的な旅客用蒸気機関車で、本線や地方線でも大活躍した名機である。1914年から1930年にかけて、707両が国内の車両メーカーで製造された。切手のデザインは、花輪線新屋新町(現在は安比高原)の積雪の中を暴走中の列車を描いたもので、迫りある切手である。

年配者にとってはSLの人気も相変わらずです。

◆最近の鉄道切手発行の動向

「切手にデザインされるものは、その国の文化を内外にアピールできるもの」という長年の慣習がありました。しかし、近年は自国にはまったく無関係な図柄を描くトピカル切手が氾濫しています。

「鉄道」もその例に洩れず、自国の鉄道でもない他国の鉄道を紹介

する「マニア相手の外貨稼ぎ」とも言える切手の乱発に、発行の名目、デザインの良否は別として、入手すべきか否か頭を悩ませている収集家も多いと思います。ご自身のポリシーに沿って取捨選択されるべきですが、今回のベスト50にはこの種の切手はまったく選定されませんでした。

◆ベスト50選定の経過

本年2月、編集部から『郵趣』の

企画として今回の「鉄道切手ベスト50!!」の話があり、正直驚くと同時に、第1回ということで光栄でもあり、責任の重さを痛感いたしました。しかし、昨秋『最新世界鉄道切手総図鑑・追補版』を主要メンバーの総力でまとめ挙げたこともあり、部会として選定は充分可能との判断でお受けしました。

まとめに当たっては、今回の企画の趣旨に沿い、可能な限り大勢

コラム① 日本の鉄道1番切手は旧小判5銭?

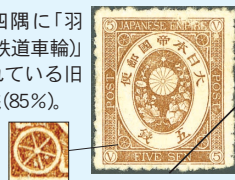
すでに日本でも110種以上発行された鉄道切手ですが、その1番切手が旧小判5銭と言うと驚かれる方も多いのではないのでしょうか。理由は、切手の四隅に描かれた「羽根車(=鉄道車輪)」にあります。

小判切手は、イタリア人エドアルド・キヨッソーネの指導により

作られたと言われていますが、切手の四隅に描かれた図案を見ると、5銭「羽根車」、6銭「スクリュー」、8銭「鳩」、10銭「馬(鞭と蹄鉄)」、12銭「気球」になります。これはさまざまな郵便送達方法をイメージしたものと思われ、キヨッソーネの頭の中には開通まもない鉄道があり、

それを「羽根車」で表現したのではないのでしょうか。ちなみに故荒井誠一さんも『最新世界鉄道切手総図鑑』に載せています。(樽井秀美)

切手の四隅に「羽根車(=鉄道車輪)」が描かれている旧小判5銭(85%)。



世界初の電気機関車切手!



第11回国際鉄道会議(スペイン・1930年)

1928年にデビューしたスペイン国鉄の7201形式2C+C2電気機関車で、前後にボンネットを搭載した大型の凸型電気機関車。この切手は電気機関車をモチーフとした世界最初の切手であり、なかなか入手が困難な切手である。

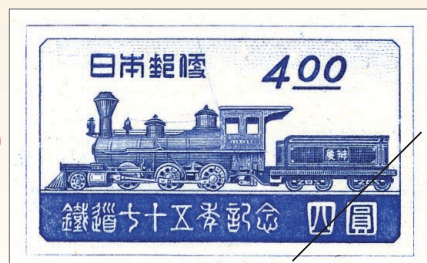
17位



18位

ダージリン・ヒマラヤ鉄道100年(インド・1982年)
雄大な雪のヒマラヤ山脈を背景に、ダージリン〜シリグリ間を結ぶ登山鉄道、サドルタンク機関車に牽引されて、ループ線に登る。

世界初の蒸気機関車ss



20位

鉄道75年(日本・1947年) [小型シート部分]

7100形式蒸気機関車で、1880年に北海道官設の幌内鉄道がアメリカに8両発注。「弁慶」、「義経」、「静」、「比羅夫」などのニックネームが付けられた。切手に採用された「弁慶」号は、鉄道記念物に指定され、神田の交通博物館に保存されている。蒸気機関車をモチーフにした小型シートとしては、世界最初のものである。

19位



TGV大西洋線開通(フランス・1989年)
フランスの高速列車TGV-Aを描く。最近の切手にしてはシブブルなデザインだが、列車のスピード感をうまく表現した素晴らしい切手である。

の部会員の意向を反映させるため、世話人会で部会員の50名を幅広いジャンルから選び、各自50点の選出をお願いしました。切手の選定は自由を原則としましたが、鉄道車両が主体のもの、色彩的に優れたもの、デザインの優れたもの、極力自国の切手を選出するなど、若干の留意点を付記の上依頼しました。

最終的に39人から回答があり、

まとめの作業に入りましたが、予想以上に多くの種類の切手が挙げられました。その数は150ヵ国、うち日本のみで64種、その他の国で770種におよび、部会員の好みが多範囲であることを改めて認識した次第です。

絞り込みのステップとして、得票の多い順に、日本、西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アフリカ、アジア&オセアニア、南北アメリカ

各地域の切手を選び出し、得票は少なくとも捨て難い切手を番外として加え、ベスト50の候補計107点を選出しました。さらに担当した部会世話人5人と編集部を加え、極端な偏りがないよう最終的に50種を選定しました。現在まで世界で発行された鉄道切手を代表するものと自負しております。

◆最近の鉄道切手“落穂ひろい”

最後に、最近の鉄道切手の一つ

コラム② 準鉄道切手～ロープウェイやリフトなど

鉄道の定義を問われて、「二次元の移動物体で、進路の拘束されているもの」と答えた人がいます。

日本の法令では、線路のないロープウェイやリフト(索道)、トロリーバス(無軌条電車)、ニュートラム(新交通)も鉄道としています。

ただ外国の鉄道切手のカタログや図鑑では、ロープウェイやリフト、特にトロリーバスは採録されず、その代わり工場や港湾などに設けられているレールの上を移動

する起重機(トラベリング・クレーン)を採録していることが多いようです。

故荒井誠一さんの『最新世界鉄道切手総図鑑』では、ロープウェイ、リフト、トロリーバス、ニュートラムは採録していますが、トラベリング・クレーンは除いています。

このほか準鉄道切手としては、遊園地のローラーコースター、児童の玩具の汽車、子供の頃に遊んだ電車ごっこ切手なども発行されています。(堀口洋平)



ロープウェイ(オーストリア・1935年)



トラベリング・クレーン(カナダ・1942年)



リフト(ニュージーランド・1984年)



電車ごっこ(台湾・1994年)

※カコミ内65%縮小

【21位～30位!!】

※21位～30位切手解説、藤井嘩氏。

21位



日本の鉄道100年
(日本・1972年)
C 62形式蒸気機関車は日本の代表的なS1で、D 52形式を種車として旅客用に改造したもの。狭軌鉄道では世界最大級の機関車である。

22位



スウェーデン郵便制度300年
(スウェーデン・1936年)
スウェーデン国鉄の2C1F形式の蒸気機関車が、郵便列車を牽引している情景である。オリブ1色刷りの上品な切手で、人気の高い切手である。



チェスケブデヨビツェ～ビルゼン間
鉄道開通100年
(チェコスロバキア・1968年)

1 B 蒸気機関車と、当時の新鋭 S699 形式 CoCo 電気機関車が描かれており、歴史を感じさせる切手である。

23位



ルクセンブルク・ブリュッセル間鉄道
電化完成(ルクセンブルク・1956年)

車窓から見たルクセンブルク中央駅と構内の鉄道情景を一望したもので、面白いモチーフの切手である。

24位

25位



山岳交通機関(スイス・1949年)

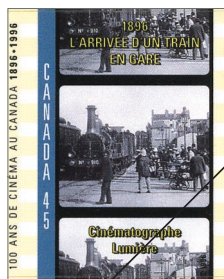
レーテッシュ鉄道・ランドワッサー橋上の電気列車。車窓から展望されるアルプスの山岳パノラマは、まさに360度の絶景を楽しむことができる。

の傾向として、単純に鉄道を描くのではなく、映画、絵画、ポスターなどを媒体としたものが目につくようになりました。

その一例として、1896年に映画を発明したフランスのリュミエール兄弟が、公開映写した世界最初の動画「ラ・シオタ駅の列車到着」は、映画100年記念(1996)としてカナダから発行され、動画の

ワンシーンが採用されています。またイギリスから「ザ・ステーション」(2003)と題したパブの看板

ポスター、「スイスのデザイン／駅の時計」(2004)など、ユニークな切手もまだまだあることをご紹介



「映画100年」(シール式)
(カナダ・1996年) [原寸]



「ザ・ステーション」
(イギリス・2003年) [75%]



「スイスのデザイン／駅の時計」(シール式)(スイス・2004年) [70%]

26位



サンマリノ〜リミニ間電車開通 (サンマリノ・1932年)

凹版印刷の味のある切手で人気が高く、鉄道切手マニアには欠かせない逸品である。

27位



ブルガリア国有鉄道50年 (ブルガリア・1939年)

機関車のキャブから顔を出しているご機嫌の機関士？ 実は当時のブルガリア国王ボリス3世でした。

28位



パーレビ国王治世10周年 (イラン・1935年)

カルン川鉄道橋上を走る1C形蒸気機関車が牽引する旅客列車。イランの鉄道関係図案切手の第1号でもある。

29位



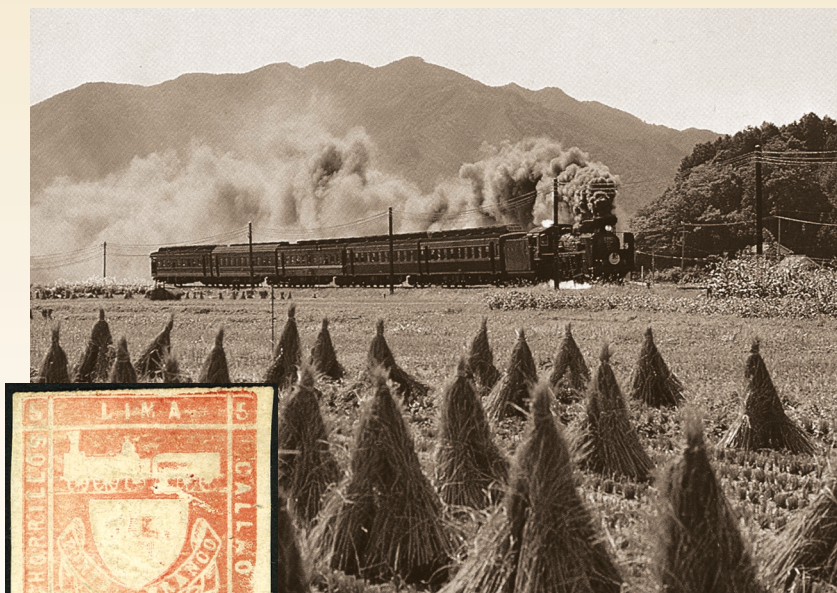
アメリカ大陸横断鉄道完成 (アメリカ・1869年)

2B形蒸気機関車を描くこの切手は、SL切手としてはニューブラウンズウィックに次ぐ2番目の切手である。[150%]

世界最初の記念切手！ 30位

リマ・カヤオ・コリリョス間鉄道開通20年(ペルー・1871年)

リマ・カヤオ・コリリョス間の鉄道開通20年を記念して発行されたもので、世界最初の記念切手でもある。図案は真横から見たC形蒸気機関車とリマ市の紋章が描かれている。[150%]



※6～7ページ、特記外、切手120%拡大。

コラム③ エラー図案の鉄道切手

数多い鉄道切手ですので、当然図案に間違いのある切手も発行されています。その中からいくつかのエラー図案切手を紹介します。

◆シンプロン・トンネル開通50年 (イタリア・1956年)

2つのトンネルの右側(切手では向かって左側)から、蒸気機関車が出てきています。しかし、開通(1906年)当時は単線であり、1922年に複線化された時の図柄とすると電気機関車でなければ不自然です(このトンネルを蒸気機関車が走ったのは、開通直後

の短期間でした)。

またイタリアの鉄道は左側通行であり、右側のトンネルから列車が出てくるはずがありません。



シンプロン・トンネル開通50年

◆北陸トンネル開通 (日本・1962年)

図案にエラーが多いことで有名な切手。主なものだけでも、①ト

ンネルの横にあるはずの信号・通信ケーブルが天井部分にある、②線路はコンクリート道床のはずが普通のまくら木、③キハ82形特急列車に乗務員用のドアがないなど。

またトンネル開通により北陸線は電化され、ほとんどが最新のEF70形で牽引されましたが、切手ではなぜか大阪・青森間のディーゼル特急が描かれています。(滝沢 順)



エラーが多いことで有名な「北陸トンネル開通」

※カコミ内75%縮小。

コラム④ 悪名高き「リーダーズ切手」の評価

悪名高い「リーダーズ切手」(1980年代半ばから後半にかけて、世界の交通機関の代表的なものを題材として、主にイギリス関連地域から乱発された切手)が発行されて、約20年が経過しました。

悪名ゆえ、今回の「ベスト50」とはまったく無縁でしたが、個人的にはこのシリーズ切手を高く評価しています。その理由は

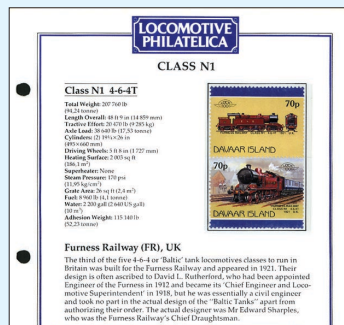
①数量：対象となった機関車は460車種。切手は機関車の着色形式図と斜視図の上下連刷ですので、計920種が発行されています。お

そらく空前絶後の数でしょう。

②統一性：切手は国名や料額、機関車の図に一定の規律があり、シリーズ全体に統一性があります。特にきちんと描かれている機関車はすべて同一人物の筆致では？と思わせるほどよく統一されています。

③正確性：発行が一段落し、全3巻からなるこのシリーズの詳細説明書を入手しました。1車種／1ページのルーズリーフ形式で、本物の切手が透明ハウイドに収まっています。各機関車のデータなど

の記載内容も信頼でき、国別年代順にファイルされているので、検索も便利。私はデータブックとして愛用しています。(勝見洋介)



シリーズ切手の詳細説明書より。

【31位～50位!!】

※31位～50位切手解説、堀口洋平氏。



31位 電気機関車シリーズ第4集「EF55形」(日本・1990年)

世界的に流行した流線形デザイン時代である1936年製。現在もイベント列車として活躍。



32位 歴史的保存物(アメリカ・1971年)

サンフランシスコのケーブルカーを描く。一時廃止が心配されたが、サンフランシスコの名物の一つとして現在も存続。



33位 ヨーロッパ切手(ベルギー・1983年)

デルボー画「夜の汽車」。デルボーの絵は、女性を主体にその中に鉄道を潜ませるものが多かったが、この絵は鉄道が主体で、19世紀の鉄道が表されている。



34位 偉大なる祖国(中国・1952年)

成渝鉄道の蒸気機関車と客車を描く。単色ながら丁寧な仕上がりが感じられる凹版印刷切手。



35位 鉄道150年(ハンガリー・1996年)

現在の車両や施設が描かれており、デザインも仕上がりも素晴らしい。[90%]



36位 カナダの機関車(カナダ・1986年)

横長のサイズの切手一杯に、「ロイヤル・ハドソン」と呼ばれるCPのH1c形2C2蒸気機関車を描いている。[90%]



37位 機関車製造(日本・1949年)

当時の最高額面切手で、入手も大変だった。濃青色と凹版の組み合わせが素晴らしい切手。



20世紀デザイン切手第16集のうちの1枚。青函トンネルを走るED79形式電気機関車と485系特急電車を描いている。

38位 青函トンネル開通(日本・2000年)



39位 サトウキビ列車(フィジー・1956年)

普通切手の中の1枚。フィジーの主要産業であるサトウキビを輸送する小型の蒸気機関車と貨車を描いている。



40位 ルーマニア鉄道70年
(ルーマニア・1939年)

橋の上を走る142形式1D2形蒸気機関車を描く。力強さがよく表現されている。



41位 切手の日(コートジボワール・1966年)

小型蒸気機関車と貨車、郵便車を描く。多色凹版印刷の切手で、現地の雰囲気を感じられる。



42位 シャフベルク鉄道100年
(オーストリア・1993年)

歯軌条式登山鉄道の客車と急勾配線用蒸気機関車を描く。



43位 いい日旅立ち(日本・1997年)
わたしの愛唱歌シリーズ第1集の中の1枚。秋景色のローカル線ホームにたむすぶ少女。個人的には最も好きな切手の1つ。読めそうで読めない駅名標も良い。



44位 蒸気機関車(マン島・2004年)

一般に世界最初の蒸気機関車と呼ばれる「ペニーダーレン」号を描く。2004年はその200年の記念の年。



45位 橋上の蒸気機関車と客車
(エリトリア・1930年)

普通切手の中の1枚で、意外と入手の難しい切手の1つ。平版印刷ながら、構図・色調のバランスが良い切手。



46位 急行列車「ブルートレイン」
(南アフリカ・1997年)

5種連刷のうちの1枚で、異型目打は第1次発行分。蒸気機関車と客車を描く。[90%]



47位 メキシコ・シティ地下鉄開通
(メキシコ・1969年)

メキシコ・シティ最初の地下鉄は、ゴムタイヤ方式で開通。単純なデザインながら地下鉄を良く表している。



48位 香港最初の地下鉄開通
(香港・1979年)

地下鉄電車正面と車体の断面図に、ロゴマークを描く。[90%]



49位 ソビエト工業の発展
(ソ連・1941年)

右にIS形式1D2形、中に流線形(赤い矢)用2C2形、左にFD形式1E1形の3両の蒸気機関車を描く。



50位 ベルギーの最新車両
(ベルギー・1998年)

「ユーロスター」と「タリス」を描く。この切手は小包郵便兼鉄道小荷物用切手で、ベルギーのこの種の切手はまもなく500種を超える。

『JPS鉄道切手部会』のご案内

JPS鉄道切手部会は、鉄道切手の愛好者はもとより、鉄道大好き人間の集まりです。

会員は全国各地に広がり、鉄道関係者や鉄道ファンも多く、鉄道のあらゆる情報もタイムリーに入手でき

ます。また年1～2回の持ち出し例会では、各地の現場見学会や地方の会員との交流会も実施しています。

例会は東京目白の「切手の博物館」で、毎月第2火曜日の午後6時から開催しています。機関誌「Railway Stamps」は隔月発行(奇数月)、鉄道切手の研究発表や情報が満載で、今年度よりA4判に変わりました。2

年毎に「Railpex 鉄道切手展」を10月に開催しています。年会費は◇ジュニア(20歳未満)…1,000円

◇一般(20歳以上)…3,000円です。

お問い合わせやご入会の手続きは下記事務局まで。

〒112-0011 東京都文京区千石3-25-11 勝見方 JPS鉄道切手部会事務局
TEL:03-3943-6253 [担当] 勝見洋介